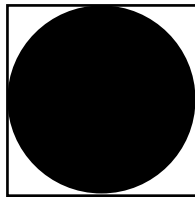


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 144

2015. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂 元裕

ニュース担当 北川 智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

美術教育の戦後70年目

公益社団法人日本美術教育連合理事・研究局長 山口 喜雄

戦後70年の日本の繁栄は美術文化やデザインなくしてあり得なかった。それを美術教育界が支えたというのは過言ではない。ふりかえれば、70年前の1945（昭和20）年7月までは、『初等科図画四男子用』の「銃・新型兵器・要塞」のように手本を写し描く臨画が美術教育の主流であった。翌月に敗戦、教科書の軍国主義に通じる頁は墨塗りにされたという。

昭和22年版学習指導要領の小学校図画工作の年間授業時数は、1学年から順に105・105・105・70～105・70・70で合計525～560単位時間、中学校は70・70・70であった。中学校図画工作教科書の初検定は1951年で13の発行者、4年後は同一年度で戦後最多15者が競う盛況ぶりである。1952年には「児童の創造力を伸ばすことは児童の個性を鍛える。児童の個性の伸長こそ新しい教育の目標だ」との〈創造美術協会宣言〉が高らかに謳われ、創美の1955（昭和30）年第4回セミナーには1670人が集い、諸団体による民間美術教育運動が活発化していく。

間もない1957（昭和32）年9月、文部省による教育課程改訂目的の諮問の説明があった。それに対して12月14日に東京の永田町小学校にて〈図画工作教育全国決起大会〉を日本美術教育連合と全国図画工作教育連盟が合同で挙行し「必修と時間数確保」を誓った。スローガンは「中学のコース別教育反対、図画工作科必修の確保と時間の増加、美的情操の教育こそ道徳の基盤、デザイン教育なくして産業の振興なし、造形感覚の陶冶は科学技術の基礎」であった。その結果、小学校は内容も時間数も現状維持、中学校は図画工作科を改め芸術性創造性を主体とした「美術科」に、生産技術内容は新設「技術科」となった。新設「美術科」には工作工芸的内容が姿を消し、週当たり必修時数が2・1・1とされたが、2・3学年の選択各1で補って2・2・2が確保された。8年後の1965（昭和40）年に第17回INSEA（国際美術教育）東京会議が開催され、「われわれは美術教育を通して、科学時代における人間疎外の事実の解消につとめるとともに、科学と芸術教育の総合によって新しい時代を建設し、平和な世界を築くために、ともに手をたずさえてあらゆる努力を続けることを誓う」との宣言を採択した。

戦後70年目の2015年6月、学習指導要領改訂に関する要望書提出に向けて造形芸術教育協議会（大学美術教育学会＋日本美術教育学会＋美術科教育学会）が軸に、公益社団法人日本美術教育連合や全国造形教育連盟など8団体が「美術教育連絡協議会」を結成して、中央教育審議会への「美術教育の充実に向けての要望書」を起草している。2015年10月18日東京家政大学で開催予定の日本美術教育研究発表会2015にて、現状を打開する研究発表が期待される。

第49回 日本美術教育研究発表会2015 案内

1. 日時 平成27年10月18日（日） 9時～17時30分（予定）
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 図書館棟
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後援 文部科学省（申請中）

公益社団法人 日本美術教育連合主催講演会

「図画工作・美術のこれからを考える」

～学習指導要領実施状況調査結果を踏まえて～

講師 岡田京子先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

日時：平成27年4月19日（日）15：00～

場所：聖心女子大学 400番教室

司会：水島尚喜 記録：西村德行

今日はお招きいただき、有り難うございます。この講演では、平成24年度に実施された、小学校学習指導要領実施状況調査の結果を踏まえて、図画工作・美術のこれからについてお話ししたいと思います。

小学校学習指導要領実施状況調査は、小学校6年生6,000人を対象に実施されました。内容としては、発想したことを絵に表すA冊子（表現：発想や構想の能力）、自分たちの作品や暮らしの中の作品、我が国の作品や諸外国の作品を鑑賞するB冊子（鑑賞：鑑賞の能力）が行われました。

今回の改訂の基本方針に掲げられている事項として、思考力・判断力・表現力等の育成があります。想像したことを絵に表す活動を通して、形の特徴を考えながら表し方を構想して表すことは相当数の児童ができていますが、想像したことを絵に表す活動を通して、表したいことを見付けて表すことは課題があると考えられています。そこで【発想や構想の能力を育成する指導の充実】が指導上の改善点として挙げられます。**★表したいことを思い付くには、指導の工夫が必要で★図画工作の内容全体を、バランスよく指導することが大切です。**また同事項では、自分たちの作品を鑑賞する活動を通して、



表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえることなどは、相当数の児童ができていますが、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品を鑑賞する活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえることは課題があると考えられています。そこで【**鑑賞の対象や鑑賞の方法を工夫した指導の充実**】が指導上の改善点として挙げられます。自分たちの作品や伝統文化にかかわるもの等、**★いろいろな作品を鑑賞することが大切です。**



今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項として〔共通事項〕があります。〔共通事項〕の視点で結果を分析すると、形、色、動き、奥行きなどひとつのことをとらえ、自分のイメージをもつことはできていますが、複数をとらえることに課題が見られます。また改訂の基本方針に掲げられている言語活動の視点で分析すると、形、色、動き、奥行きなどひとつのことをとらえ、自分のイメージをもち説明することはできていますが、複数を根拠に説明することに課題が見られます。そこで【**造形的な特徴をとらえイメージをもつことに関する指導の充実**】が指導上の改善点として示されています。自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分のイメージをもつという指導事項、**★〔共通事項〕をより一層理解することが大切です。**

学習に対する児童生徒の意識や、教師の指導の実態等についておこなった調査では、鑑賞に関する質問に肯定的な回答が多く見られ、また表現と鑑賞を関連付けた指導を行っているかという項目では、前回（平成16年、48.3%）の回答を大きく上回る83.7%が行っていると答えています。造形的な創造活動の基礎的な能力ベースで題材を理解しながら、**★学びのプロセスを考えることが大切です。**

他者との違いやよさへの気付きについての質問では、気付くと答えた児童が82.3%、またそのような授業を行っていると答えた教師も80～90%と大変高い数値がでています。【**共に学び合う場としての指導の充実**】をより一層重視しすべての活動において、**★共に学び高め合う学習としての指導を充実することが大切です。**

平成26年11月20日には、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」が出され、学習指導要領改訂に向けての動きがいよいよはじまりました。大切なのは、どの子供も、活動や作品をよりよくしようとしていることに目を向けることです。この教科を通して、子供も私たちもよりよく生きていける方法をぜひ考えていきたいですね。そんな指導が、さらに広がっていくことを期待しています。

※小学校学習指導要領実施状況調査の結果については、国立教育政策研究所のホームページなどに掲載されています。

平成 26 年度 事 業 報 告

平成26年

4月6日（日） 北川智久、郡司明子 両監事による会計監査が実施された。

- 4月20日（日） 第4回定時総会が聖心女子大学において開催された。
同日、同会場においてシンポジウム「美術教育の未来をひらくために現状を分析しこれからの在り方を考える」が開催された。
司会 水島尚喜 シンポジスト 宮坂元裕、永関和雄、新関伸也
大橋 功、松山 明、藤江 充
- 5月29日（木） 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅲ期〉」準備会を行った。
- 6月15日（日） 日本美術教育連合ニュース No.141号が発行された。
- 6月29日（日） 第1回理事会・運営委員会が東京家政大学で開催された。
- 8月26日（火） 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅲ期〉」が四谷CCAAにおいて開催された。
- 8月27日（水） 前日に引き続き「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅲ期〉」が上記会場で開催された。
- 8月31日（日） 第2回理事会・運営委員会、日本美術教育研究論集編集委員会が東京家政大学で開催された。
- 9月15日（月） 日本美術教育連合ニュース No.142号が発行された。
- 10月19日（日） 第4回（通算48回）日本美術教育研究発表会が東京家政大学において開催された。37件の発表があった。
- 11月24日（月） 第3回理事会・運営委員会、日本美術教育研究論集編集委員会が東京家政大学で開催された。
- 12月7日（日） 第4回理事会・運営委員会、日本美術教育研究論集編集委員会が東京家政大学で開催された。

平成27年

- 1月25日（日） 第5回理事会・運営委員会、日本美術教育研究論集編集委員会が武蔵野美術大学新宿サテライトで開催された。
同日、同会場において、造形・美術教育フォーラム「美術教育の立場から今の子供たちの姿を浮かび上がらせる－資質・能力を共通理解するための円卓会議－」が開催された。
- 2月15日（日） 日本美術教育連合ニュース No.143号が発行された。
- 3月15日（日） 第6回理事会・運営委員会が東京家政大学で開催された。
- 3月31日（火） 日本美術教育研究論集2015 No.48 が発行された。
- 4月4日（土） 北澤俊之監事による会計監査が実施された。
-

4月19日（日） 第5回定時総会を聖心女子大学において開催。

(1) 貸 借 対 照 表

平成27年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	967,973	1,216,217	△ 248,244
流動資産合計	967,973	1,216,217	△ 248,244
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2) 特定資産			
新事業準備預金	28,930	29,786	△ 856
特定資産合計	28,930	29,786	△ 856
(3) その他固定資産			
敷金	60,000	60,000	0
その他固定資産合計	60,000	60,000	0
固定資産合計	5,188,930	5,189,786	△ 856
資産合計	6,156,903	6,406,003	△ 249,100
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	824,218	686,399	137,819
借入金	650,000	650,000	0
前受金	66,000	0	66,000
流動負債合計	1,540,218	1,336,399	203,819
負債合計	1,540,218	1,336,399	203,819
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	4,616,685	5,069,604	△ 452,919
(うち特定資産への充当額)	(28,930)	(29,786)	-(856)
正味財産合計	4,616,685	5,069,604	△ 452,919
負債及び正味財産合計	6,156,903	6,406,003	△ 249,100

(2) 正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,299	1,299	0
特定資産運用益			
特定資産受取利息	5	5	0
受取入会金			
受取入会金	48,000	54,000	△ 6,000
受取会費			
受取正会員会費	829,000	924,000	△ 95,000
受取賛助会員会費	165,000	175,000	△ 10,000
事業収益			
論集広告料	164,600	215,000	△ 50,400
論集掲載料	547,000	490,000	57,000
受取補助金等			
受取寄付金	60,000	147,500	△ 87,500
受取利息	76	26	50
雑収益	82,000	33,950	48,050
経常収益計	1,896,980	2,040,780	△ 143,800
(2) 経常費用			
事業費			
業務委託費	10,000	0	10,000
消耗品費	1,863	0	1,863
印刷製本費	1,068,760	895,125	173,635
通信運搬費	161,747	136,509	25,238
諸謝金	217,000	85,000	132,000
Insea世界大会諸謝金	0	30,000	△ 30,000
会議費	42,137	20,000	22,137
雑費	3,402	3,840	△ 438
管理費			
福利厚生費	16,200	0	16,200
会議費	207,346	239,000	△ 31,654
旅費交通費	1,230	11,510	△ 10,280
通信運搬費	15,126	51,520	△ 36,394
光熱水料費	0	4,500	△ 4,500
地代家賃	325,000	548,000	△ 223,000
懇親会費	0	7,780	△ 7,780
消耗品費	4,406	17,388	△ 12,982
計算書類作成費	270,000	283,500	△ 13,500
雑費	5,682	6,680	△ 998
経常費用計	2,349,899	2,340,352	9,547
当期経常増減額	-452,919	-299,572	△ 153,347
当期一般正味財産増減額	-452,919	-299,572	△ 153,347
一般正味財産期首残高	5,069,604	5,369,176	△ 299,572
一般正味財産期末残高	4,616,685	5,069,604	△ 452,919
II 正味財産期末残高	4,616,685	5,069,604	△ 452,919

(3) 財務諸表に対する注記

1. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	29,786	1,304	2,160	28,930
小計	29,786	1,304	2,160	28,930
合 計	5,129,786	1,304	2,160	5,128,930

2. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	2,600,000	0
図書	2,500,000	0	2,500,000	0
小計	5,100,000	0	5,100,000	0
特定資産				
新事業準備預金	28,930	0	28,930	0
小計	28,930	0	28,930	0
合 計	5,128,930	0	5,128,930	0

(4) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産					
	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産					
	新事業準備預金	29,786	1,304	2,160	28,930
	特定資産計	29,786	1,304	2,160	28,930

(5) 財 産 目 録

平成27年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金預金			
	現金	手元保管	運転資金として	179,751
	通常預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	107,265
	振替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	680,957
流動資産合計				967,973
(固定資産)	基本財産			
	定期預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を公益目的事業及び法人会計に使用する。	2,600,000
	図書	山形文庫 2,003冊 筑波大学芸術学系保管	調査研究の資料として活用している。	2,500,000
	特定資産			
	新事業準備預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を法人会計の収入に活用する。	28,930
	その他固定資産			
	敷金	文京区本郷2-30-14	事務所敷金	60,000
固定資産合計				5,188,930
資産合計				6,156,903
(流動負債)	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第48号 印刷代	671,760
	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第48号 郵送料	36,598
	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究発表会第48号概要集 印刷代	46,656
	未払金	上武印刷㈱	連合ニュース143号 印刷代	51,904
	未払金	上武印刷㈱	連合ニュース143号 郵送料	17,300
	未払金 計			824,218
	借入金	宮坂元裕	運転資金	650,000
	前受金		平成27年度受取正会員会費7件	42,000
	前受金		平成28年度受取正会員会費2件	12,000
	前受金		平成29年度受取正会員会費1件	6,000
	前受金		平成30年度受取正会員会費1件	6,000
	前受金 計			66,000
流動負債合計				1,540,218
負債合計				1,540,218
正味財産				4,616,685

会計監査報告書

平成26年度(平成26年4月1日～平成27年3月31日)の事業報告並びに収支計算書につき監査の結果、予算執行、経理事務処理等が適正であることを認めます。

平成27年4月4日

公益社団法人 日本美術教育連合

監事 北澤 俊之 

平成 27 年度 事 業 予 定

平成27年

- 4月19日（日） 第5回 定時総会 及び講演会 開催
会場 聖心女子大学400番教室
- 5月 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅳ期〉」準備会
- 6月 日本美術教育連合ニュース No.144 発行
- 6月28日（日） 第1回 理事会・運営委員会
会場 東京家政大学
- 8月 造形・美術教育力養成講座〈第Ⅳ期〉開催
- 8月30日（日） 第2回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 9月 日本美術教育連合ニュース No.145 発行
- 10月18日（日） 第49回 日本美術教育研究発表会 開催
会場 東京家政大学
第1回 会計監査 北澤俊之監事
- 11月22日（日） 第3回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 12月6日（日） 第4回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
造形・美術教育フォーラム 開催
会場 未定
- 12月 理事及び 運営委員 選挙

平成28年

- 1月24日（日） 第5回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 2月 日本美術教育連合ニュース No.146 発行
- 3月13日（日） 第6回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 3月31日（木） 日本美術教育研究論集2016 No.49 発行
- 4月9日（土） 第2回 会計監査 北澤俊之監事

-
- 4月24日（日） 第6回 定時総会（予定）
会場 未定

収 支 予 算 書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,000	4,000	0
基本財産受取利息	4,000	4,000	0
受取入会金	30,000	30,000	0
受取入会金	30,000	30,000	0
受取会費	1,290,000	1,290,000	0
受取正会員会費	1,140,000	1,140,000	0
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0
事業収益	500,000	500,000	0
受取論集広告料	200,000	200,000	0
受取論集掲載料	300,000	300,000	0
受取補助金等	301,000	301,000	0
受取寄付金	300,000	300,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,125,000	2,125,000	0
(2) 経常費用			
事業費	1,022,000	1,022,000	0
雑給	0	0	0
消耗品費	2,000	2,000	0
印刷製本費	700,000	700,000	0
通信運搬費	200,000	200,000	0
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	5,000	5,000	0
会議費	15,000	15,000	0
管理費	1,147,000	972,000	175,000
給料手当	0	0	0
会議費	204,000	200,000	4,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	57,000	40,000	17,000
賃借料費	592,000	442,000	150,000
消耗品費	9,000	5,000	4,000
印刷製本費	40,000	40,000	0
支払負担金	30,000	30,000	0
計算書類作成費	200,000	200,000	0
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	2,169,000	1,994,000	175,000
当期経常増減額	-44,000	131,000	△ 175,000
当期一般正味財産増減額	-44,000	131,000	△ 175,000
一般正味財産期首残高	4,616,685	5,069,604	△ 452,919
一般正味財産期末残高	4,572,685	5,200,604	△ 627,919
II 正味財産期末残高	4,572,685	5,200,604	△ 627,919

■第35回InSEA 世界会議大邱大会について

連合ニュース141号では、第35回InSEA世界会議大邱大会は、2017年5月開催予定とお伝えしましたが、現段階の情報では、2017年8月の6日間となっています。そのテーマを「Spirit ∞ Art ∞ Digital」とし、キーワードとして次の言葉を掲げています。

The wheel of diversity

Spirituality

Hybridity & community

Expanding Reality

Matching into a new Era

また、そのポスターには次のような言葉を掲載しています。

『デジタルと芸術教育の関係性は、方法論や技術的な問題ではなく、むしろ精神性や人間性の問題である。また、デジタルを取り入れた芸術教育はどのような可能性や問題を生み出すのであろうか。デジタルによるよき方法論において、芸術教育はどのような役割を演じることができるのであろうか。芸術教育の文脈の中で、精神性はデジタルのどこに存在するのであろうか。「精神」、「芸術」、そして「デジタル」の言葉によって魅了される共存の物語は、芸術教育のサバイバルのための新たな時代思潮と、基本的な教義を描くことになる。』

大会開催が参加しやすい8月となったこともあり、本連合としては、会員の皆様のご意見やご意向を伺いながら、大邱大会参加ツアーの計画を構想中です。また、これまでの世界会議の様子から、研究発表等の申し込みは、大会の1年半ほど前から始まり、半年以上前にメットとなることが考えられます。研究発表をお考えの方は早めの準備をお勧めします。

■InSEA NEWS 5月号より

「第4回UNESCO国際芸術教育週間(4th UNESCO International Arts Education Week)」が「持続可能な発展のための芸術教育(Arts Education for Sustainable Development)」のテーマの下、本年5月25日～31日まで実施され、InSEA NEWS 5月号では、その意義やプログラムの呼びかけなどが特集されています。日本ではあまり大きな話題とはなっていない「国際芸術週間」ですが、欧米、アフリカなどを中心とする国々では、大きなイベントとして様々なプログラムが実施されています。

既に2011年のUNESCO総会では、2010年にソウルで開催された第2回芸術教育世界会議の成果文書「ソウルアジェンダ」の採択と合わせて、5月第4週を「国際芸術週間」とすることの宣言がなされており、日本でもこの時期を節目として、国際的な視点からの様々な取り組みを考えるべきではないでしょうか。

事業局長 水島 尚喜

小中学校教員、美術館関係者、連合会員、画塾経営者、学生、保護者の皆様へ
 公益社団法人日本美術教育連合主催造形・美術教育力養成講座の御案内
 — 第2期2次目【子どもと造形表現】 —

— ご挨拶 —

「日本美術教育連合」は内閣府の承認を得た造形・美術教育にかかわる唯一の公益社団法人です。公益事業として、連続講座を企画し、多くの方々から好評を博しています。今期は、「子どもと造形表現」をテーマとして、気鋭の講師陣が担当いたします。どうぞ、奮ってご参加ください。

(公益社団法人日本美術教育連合 理事長 宮坂元裕)

主旨：子どもと造形表現をめぐって理解を深め、講義と演習を通して教育実践力を高める8回連続の講座を行ないます。すべての講座を満了し、一定の規程を満たした参加者には、公益社団法人日本美術教育連合からの「認定証」を授与します。

日 程：平成27年8月24日（月）、8月25日（火）の2日間（90分×8回）

参加料金等：随時受付。参加ご希望の方は、以下のサイトにアクセスし、参加申し込みフォームよりお申し込みください。尚、「日本美術教育連合HP」「QRコード」からのアクセスもできます。
 — 講座1,500円当日払い（日本美術教育連合会員は、1,000円）

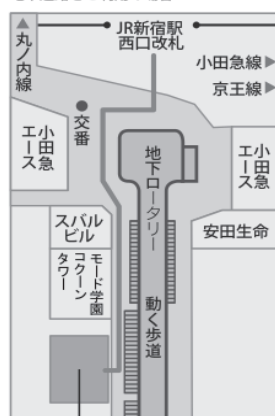
<https://docs.google.com/forms/d/1-ZU1OprUKu3760RbjTYQSIYIQ-yA3HX93wQDa9TK-J8/viewform>

会 場：〒163-0609 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階

武蔵野美術大学新宿サテライト TEL：03-3343-6311・6312（申し込み先ではありません。）
 （JR中央線・山手線、新宿駅西口下車徒歩約5分）

武蔵野美術大学新宿サテライト

地下通路をご利用の場合



新宿センタービル

武蔵野美術大学新宿サテライト

東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階 JR新宿駅西口より徒歩5分



■ QR コード

公益社団法人日本美術教育連合主催講座 —造形・美術教育力養成講座— <第2期>子どもと造形表現

* 申し込みの際のメモとして、ご使用ください。

	講 座 名 ・ 日 時	メ モ
1	講師：榎原弘二郎（埼玉大学名誉教授）関口竜平（公立中学校教諭） 「障害のある子どもの表現 ー特別支援教育から学ぶことー」 日時：8月24日 月曜日（10:00～11:30）	
2	講師：奥村高明（聖徳大学教授、前文科省教科調査官） 「子どもの絵の見方 ー表現者としての子どもー」 日時：8月24日 月曜日（12:30～14:00）	
3	講師：西村徳行（東京学芸大学准教授） 「表現と鑑賞の狭間 つくってみる」 日時：8月24日 月曜日（14:15～15:45）	
4	講師：橋本光明（長野県信濃美術館・東山魁夷館館長、信州大学名誉教授） 「美術館と子ども」 日時：8月24日 月曜日（16:00～17:30）	
5	講師：水島尚喜（聖心女子大学教授） 「子どもと絵本文化」 日時：8月25日 火曜日（10:00～11:30）	
6	講師：小林貴史（東京造形大学教授）北澤俊之（東洋大学准教授） 「アメリカの『美的教育』プログラムに学ぶ」 日時：8月25日 火曜日（12:30～14:00）	
7	講師：宮坂元裕（横浜国立大学名誉教授）藤崎典子（前小学校教諭） 「海外での表現教育の事例」 日時：8月25日 火曜日（14:15～15:45）	
8	講師：茂木一司（群馬大学教授） 「協同と表現の学びとしてのワークショップ」 日時：8月25日 火曜日（16:00～17:30）	

●氏名／所属等	
●住所	
● 連絡先電話番号 ●メールアドレス (内容変更時等の連絡用)	

第49回 日本美術教育研究発表会 2015

【一次案内】

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 山口 喜雄

昨年7月、オーストラリアにて「Diversity through Art (アートによる多様性)」というテーマで第34回 InSEA世界会議メルボルン大会2014が開催され、本連合からも多くの会員が参加・発表しました。一方、日本美術教育研究発表会は「国際理解と美術教育の前進」という趣旨で1966年に創設されました。本年度は第49回で、公益社団法人後5回目です。児童教育・造形表現・服飾美術等の学科を擁し、造形美術表現や教員養成にも力を入れている東京家政大学にて開催いたします。本発表会は美術教育の理論研究だけでなく、実践研究の重視が特色です。従前の口頭発表(発表20分+協議5分)の他に①モジュール口頭発表(発表30分+協議25分)3コマ、②研究ノート、③発表会改善アンケート(今年度運営反省と次年度企画提案)、以上3つの新機軸を継続実施いたします。意欲的な方々の美術教育に関する研究発表や参加をお待ちしています。

参 加 要 項

- 開催日時： 2015(平成27)年**10月18日(日)** 9時～17時30分(予定)
- 会 場： **東京家政大学** 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
経路の詳細は同大学HP (<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/70/index.php>)
を参照願います。
- 参加費等： 参加費は500円(概要集代として) 事前申込みは不要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会2015概要集』をお渡しいたします。
- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援： 文部科学省(申請中)

〈口頭発表〉申込8/21(金) 必着

- 発表資格： 共同発表者も含め、本会会員であること。新規入会希望者は、「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に、「入会申込書」を次のURL、<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/bijutu/8.html>から印刷し、事務局長宛てにお送りください。入会には会員1名の推薦が必要です。
身近に会員がいない場合は、下記問合先にご相談下さい。
- 発表時間： 入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。
研究発表〈口頭発表〉20分 質疑応答5分 移動・準備5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分+質疑応答25分 移動・準備5分〔役員会で選定〕
- 発表区分： A群・B群・C群の3区分があり、「研究発表申込書」にどれかを明記して下さい。
A群：理論・実践研究論文(査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です)
B群：実践研究報告等(査読あり、題目のみ英文標記)、C群：研究ノート(同前)
- 発表方式： 申込時に希望機器を明記して下さい。1) 液晶プロジェクター(HD-D-Sub15ピン対応)、
2) 実物投影機、3) 機器を使用しない
- 発表申込： 配布用のレジュメまたは資料等は、50～70部程度ご用意下さい。
「研究発表〈口頭発表〉申込書」の申込期限厳守 **2015年8月21日(金) 必着**
申込書記入は日本美術教育連合HP掲載の様式で、E-mailまたは郵送で送付して下さい。
概要集転記のため下1)～6)は期日までにE-mailで全員必ず送信して下さい。
E-mailの見出しまたは封書表左下に「●2015連合発表申込(氏名)」とお書き下さい。
1) 発表者氏名(複数は全員/和・英表記)・所属先・職位(院生等は課程名・学年も記入)
2) 発表者連絡先 自宅〒・住所(複数は全員/帰省先も必ず)、
3) 発表者自宅・携帯電話番号(複数は全員)、E-mailアドレス(複数は全員)
4) 発表区分の別と執筆頁数：A群【8・10・12】頁、B群【8・10・12】頁、C群【6・8】頁
5) 発表方式の別：1) 液晶プロジェクター 2) 実物投影機 3) 機器を使用しない
6) 発表題目(和文)※文字数が多い場合、「発表時間割」に副題を掲載できない場合があります。
7) 発表題目(英文)
8) 概要文(600字以内：和文のみ、完全原稿でお願いします)
上記不備の場合は〈研究発表〉ができません。E-mailが使用できない方はお問合せ下さい。
- 申 込 先： E-mail 送付先：takaoyuiki@icloud.com 結城孝雄(東京家政大学)宛
E-mailの送信後7日後以内に受付確認の返信がない場合は、念のため再度送信して下さい。
郵送先：〒173-8602東京都板橋区加賀1-18-1東京家政大学 児童教育学科 結城孝雄 宛

備考・問合先

- 参照URL： <http://www.edu.gunma-u.ac.jp/bijutu/8.html> (役員・茂木一司作成/群馬大学)を参照。
- 発表時程： 9月下旬発行の『連合ニュース145号』に掲載し、会員に送付する予定です。
- 問 合 先： 研究局長・山口喜雄 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部
山口研究室 TEL&FAX 028 (649) 5364(直通)/E-mail nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第49号 日本美術教育研究論集 2016

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第49回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第49号研究論集2016』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の（１）～（５）の条件を全て満たしたものに限りします。
- （１）投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - （２）投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
 - （３）掲載料を期日（2015年11月11日）までに納入していること。
 - （４）作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
 - （５）引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- 論文査読： A群（理論・実践研究論文）・B群（実践研究報告等）・C群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（A群のみ）を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1頁分は、A 4横組2段 23字×44行×2段＝2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第5行目（2段取り）までに、題目（副題）・所属・氏名を記載し、本文との間に2行（2段取り）のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目（１）（２）（３）…、小項目①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁（C群のみ6頁も可）とし、掲載料は一般（給与を得ている内地留学生等を含む）15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。（抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。）
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1- 86036（右寄せで記入） 郵便振込です。
- 加入者名： 社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人：（〒）おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通 信 欄： 例 掲載料15,000円（一般、8頁）＋増頁分6,000円（2頁増の場合）＝21,000円（計10頁）
- 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円（院生・学生は5,000円）のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/11（水）必着

- 投稿〆切： 2015（平成27）年11月11日（水）必着。A群・B群・C群とも、①正1部と副4部（コピー可）計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。なお、発行日は2016（平成28）年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

連絡・問合せ

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問 合 先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111（代） ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

公益社団法人 日本美術教育連合 入会申込書 (学生・一般)

○で囲んで下さい

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮坂元裕様

日本美術教育連合への入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな

氏名

印

■ 現住所 〒

電話・FAX (自宅) または携帯

■ 勤務先・職名

〔学生は大学名・学年(専攻名)〕

所在地 〒

電話・FAX (勤務先)

■ Eメール

■ 帰省先 (※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は以下空欄)
住 所 〒

電話・FAX (帰省先)

上記の方を会員として推薦いたします。

平成 年 月 日

会員氏名

印

※送付先・問い合わせ先 〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 東京家政大学 児童教育学科
公益社団法人 日本美術教育連合事務局長 結城 孝雄 宛
TEL+FAX 03-3961-5594 (結城研究室直通)

E-mail: takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

※送付と同時に以下の要領で入会金と年度会費の「郵便振込」をお願いいたします。

口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入)

加入者名：公益社団法人日本美術教育連合

通信欄：入会金 3,000 円 (入会時のみ) + 平成 27 年度会費 6,000 円 = 9,000 円

ご依頼人：おところ (〒) ・おなまえ (電話)

※上記の個人情報は、本連合研究発表会・概要集・論文等関連以外に使用いたしません。

第 49 回日本美術教育研究発表会 2015 研究発表申込書

○で囲んで下さい

(学生・一般)

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮坂 元裕 様

●日本美術教育研究論集第49号への投稿（有料）が可能です。
モジュール55分発表希望【有・無】（役員会審査、3組選定します）
ご希望の「発表区分」および頁数に○をつけて下さい。
発表区分 A群 理論・実践研究論文（査読あり・要英文サマリー）
B群 実践研究報告等（査読あり）
A・B群頁数 【8・10・12】頁（他、カラー頁有料 挿入可です）
C群 研究ノート（査読あり）【6・8】頁
*論集原稿の締め切りは、平成27年11月12日（木）必着です。

「第49回日本美術教育研究発表会2015」での研究発表を申し込みます。

平成 27年 月 日

ふりがな

氏 名

印

■ 現住所 〒

電話・FAX（自宅）または携帯

■ 勤務先・職名

〔学生・院生は学校名・学年（専攻名）〕

所在地 〒

電話・FAX（勤務先）

■ Eメール

■ 発表題目

（英表記）

■ 発表時使用機器 （次の機器が使用可能です。ご希望の機器番号に○印をつけて下さい）

1) 液晶プロジェクター（HD-D-sub15ピン対応） 2) 実物投影機 3) 機器を使用しない

※液晶プロジェクター利用ご希望の方へ：接続コネクタはHD-D-sub15ピン対応のため、対応する接続ケーブルを各自でご持参下さい。接続可能か不明の場合は、電気店等でお尋ね願います。

また、プロジェクター以外の機器類（パソコンやMOドライブ、変換ケーブル等）も各自でご持参下さい。

■ 帰省先 （※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は、以下空欄）

住 所 〒

電話・FAX（帰省先）

■ 申込書郵送先：〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 東京家政大学 児童教育学科 結城孝雄 宛
E-mail 送信先／takaoyuiki@icloud.com 結城孝雄（東京家政大学）

※封書表左下に「●**連合発表申込**」とお書き下さい。郵送せず E-mail 送信のみも受け付けます。

■ 申込期限 平成 27（2015）年 8 月 21 日（金）必着（メール送信も左記同日必着）

●重要：上記 E-mail アドレス宛に「●2015 連合発表申込（氏名）」で次の 1)～6) を期日までに送信下さい。

1) 発表者氏名（複数は全員／和・英表記）・所属先・職位（院生等は課程名・学年も記入）

2) 発表者連絡先 自宅〒・住所（複数は全員／帰省先も必ず）、

3) 発表者自宅・携帯電話番号（複数は全員）、E-mail アドレス（複数は全員）

4) 発表区分の別と執筆頁数：A群【8・10・12】頁、B群【8・10・12】頁、C群【6・8】頁

5) 発表方式の別：1) 液晶プロジェクター 2) 実物投影機 3) 機器を使用しない

6) 発表題目（和文）※文字数が多い場合、「発表時間割」に副題を掲載できない場合があります。

7) 発表題目（英文）

8) 概要文（600 字以内：和文のみ、完全原稿でお願いします）

※上記の個人情報、本研究発表会・概要集・論文等関連以外に使用いたしません。

【訃 報】

藏西東黄先生ご逝去、日本美術教育連合の功労者

旧社団法人日本美術教育連合理事ならびに事務局長、埼玉県戸田市立戸田南小学校校長、白百合女子大学教授などをご歴任の藏西東黄（くらにし こうこう）先生が、平成27（2015）年5月6日に肝内胆管癌のため逝去されました。退職後に2年間闘病され、享年75歳（昭和15年2月生まれ）でした。生前、静かに葬儀を行ってほしいとご家族に伝えていたと伺いました。

藏西先生は、平成7（1995）～11（1999）年度に旧社団法人日本美術教育連合・理事、平成12（2000）～16（2004）年度に旧社団法人日本美術教育連合・理事・事務局長の重責を担われた日本美術教育連合の功労者です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

（山口 喜雄）

事務局便り

■平成26年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、計104,500円もの多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

【ご芳名】(50音順／敬称略)

開隆堂出版(株)、(公財)教育美術振興会、(株)サクラクレパス、新日本造形(株)、(公財)日本習字学会、
日本文教出版(株)、林耕史、(株)美工堂、(株)美術出版サービスセンター、光村図書出版(株)

■平成26年度 会員の異動 (敬称略)

平成26年度退会者

藏西 東黄 (故人)、中平 千尋 (故人)、皆本二三江、瀧川 桂子

平成26年度入会者 (11名)

岡田 京子、細田すみれ、吉澤 友希、藤井 康子、村山 宏昌、竹内 晋平、中條 秀憲、
鈴木 佳那、高山 理子、Maria del Rosario Escobar Garcia、春林

■平成26年度 郵送不在の方 住所変更がありましたら御一報ください。(敬称略)

岡 照幸、児玉 信正、佐藤 仁美、相馬 亮、山岸弘一郎、和田 学

■平成27年度 (2015年度) 会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成27年度会費 6,000円 を 納入してください。

納入期限 2015 (平成27) 年 8 月 28 日 (金)

* 同封の振り込み用紙をご利用ください。(手数料は恐れ入りますがご負担ください。)

* 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。皆様の会費で本会は成り立っております。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲ 3年以上の会費未納の皆様へ

* 平成25年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

* 納入期限：平成27年8月28日 (金)

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。

■お問い合わせ先：事務局 東京家政大学 家政学部 児童教育学科 第7研究室
公益社団法人 日本美術教育連合 事務局長 結城 孝雄 迄

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 東京家政大学
TEL+FAX 03-3961-5594 (研究直通)
E-mail takaoyuki@icloud.com

【郵便振替】(公社)日本美術教育連合 口座番号 00170-1-86036